

## 「チャレンジ」インタビュー

# 東京オリンピックの時代から現在も現役で張り込み!! — 週刊誌の最年長女性写真家、佐々木恵子さん —



「私のメールアドレスは、パパラッチではなくbabalacciよ！」と笑顔で自己紹介。今回の会員は、週刊誌の最年長女性写真家として今も活躍されている佐々木恵子さん（68歳）。20歳のときの東京オリンピック取材に始まり、現在も第一線で忙しい日々を過ごしている。今年3月には、週刊誌で撮影した写真をふり返った佐々木恵子写真展「OLDIES（オールディズ）」（2012年3月2日～8日）を、コダックフォトギャラリーで開催された。半世紀近く報道写真の第一線で活躍している彼女にその秘話を伺った。

### — 写真との最初の出会いは？

父が写真好きでカメラには子供の頃から慣れ親しんでいました。高校時代はあまりにやんちゃ過ぎて退学になりかけ、写真学校時代は授業で怒られてばかりの記憶です。

学生の頃は私の好きなジャズが流れていて、アート・ブレーキーの公演を聴きに行き、一番前で撮影しました。楽屋へも押しかけたら短髪の私を見た彼に、「男か？ 女か？」と訊かれてしまいした。暗室を作り、初めてフィルム現像をしたのもこのときです。

### — その当時からすでに直撃精神旺盛だったのですね！

そうですね。楽屋へはサインをもらいに行っただけですが、そのときのサインはまだ大事に持っています。

### — 報道写真家になるきっかけは？

東京オリンピックがあった頃、女子選手村を撮るカメラマンとして講談社に入り、「ヤングレディ」に所属になりました。まだ卒業前でしたが、一番初めの仕事は越路吹雪夫妻の撮影でした。ライティングや露出もわからず3回撮り直

しましたが、夫妻はとても優しく許してくれました。当時、ヤングレディには4人のカメラマンが在籍し、そういう環境のなかで報道写真の世界に自然と入って行きました。ダイアン・アーバスなども読みましたが、さっぱりわかりませんでした。

### — 音楽関係の写真が多いようですが、ビートルズなどの撮影秘話はありますか？

ビートルズは許可を取らずに撮っていました。プロのカメラマンに見られなかったようです。もし許可を申請しても得られなかっただけでなく、今はビートルズが神格化されていますが、その頃はそうでもなかったように感じます。2006年にキャピトル東急（旧ヒルトン）が閉館になるというので、「こちらで撮ったビートルズの写真がありますが、写真展をやりませんか」と売り込み、写真展をそこで開きました。他のカメラマンが撮らなかったビートルズの素の姿の写真です。

マイケル・ジャクソンが5歳で来日したときも撮影しました。共同企画で呼んだお付きの人が私の知人で、お金を払って帝国劇場の玄関へ連れて来てもらいました。

### — 直撃や張り込み、潜入など取材のエピソードは？

ある大物俳優の張り込み取材で相手が激怒して「女でなければ殴ってるぞ」と言われ、そのときは女で良かったと思いました。またあるアナウンサーの結婚式では報道陣撮影場所とは別に、近くの道から撮影を試みたところガードマンが来ました。「公道なので自由にできる」と主張し口論となりましたが、野次馬が集まってきたので「芸能人がいっぱい来るよ、携帯で撮れば？」と彼らを味方につけて皆にまぎれて撮りました。「変なおばさんがいる」と警備員が無線で会話をしていたので、単なる追っかけのおばさんだと思われていたようですね。

運動会などに変装して忍び込むこともよしつちゅうですね。先日もある皇室の文化祭を撮影しました。私のようなおばあさんは大勢いるので、それなりの服装をしていけば大丈夫です。皆さん立派なカメラを持って「撮影禁止」とあっても撮っていますので、私も堂々と撮りました。昔、皇室の乗馬撮影では、毛皮を着て潜入したこともあります。

ほかにも有名野球選手の結婚騒動取材など、忘れられないエピソードは山ほどあります。グラビア・アイドルのはしりの時期にその撮影もしましたが、やっぱりグラビアよりも直撃がおもしろいですね。張り込みは1回約6時間。忙しいときは1日に2回張り込みをしました。ご飯は買っておけば良いのですが問題はトイレ。水分を摂らないようにし

ていたら、次第にトイレに行かなくなる体質になりました。でも具合が悪くなることはありませんし、ここ30年は風邪もひいていませんよ。張り込みに欠かせない機材は車に積んであります。車は週1回必ず掃除します。張り込みをするときは黒服を着て白髪も隠していきます(笑)。でも張り込みより直撃のほうが好きですね。

— 肖像権、個人情報保護法などの影響はありますか。

あると思います。3月の「OLDIES(オールディズ)」写真展は当初ビートルズだけで行なったかったのですが、肖像権の問題があるので週刊誌の仕事を振り返る写真展にしました。

またある事件で、隣の建築現場から自宅の彼を撮影すればスクープという場面がありました。会社仲間から駄目だと言われ止めたこともあります。

私の近所に芸能人が住んでいて、10回ほど夜中の3時に張り込んだことがあります。ある日張り込み開始から5分で警察が来て職務質問されました。名刺を見ると警察側も報道の自由を認めてくれましたが、その後はガードマンを雇われてしまいました。彼自身はサービス精神旺盛なので自然な写真を撮らせてくれるのですが…。

— 今年のJPS展員出展作品は「寄せ場」です。

横浜・寿町の焼き出しの写真です。姉が週1回通っていたので私も行くようになりました。1年通ってやっと仲良くなり、撮影できるようになりました。ほかには平塚の砂防林に住むホームレスの写真も撮っています。

震災の被災地へも仕事で行きましたが、撮影のときに良い写真とは何だろうかと考え込んでしまいました。写真には「撮られた人の思い」が出てくるわけですから、その人が不幸であればあるほど良い写真なのかと考えてしまいます。不幸を望んでしまうわけです。その葛藤があります。この「寄せ場」の方々とは一緒に鍋も食べますし、バザーでも一緒に買い物もします。彼らは決して不幸ではないと思うようにしています。

— 報道写真家にとって大切な資質は何でしょうか。

好奇心でしょうか。小さい頃から、どこかに行くと必ず先へ先へと行ってしまい、よく行方不明になる子供でした。木登りが大好きで高いところは平気です。明治神宮が近所でしたので、木の気持ちになってみようと全部の木に登って



週刊誌掲載記事や自身でプリントされた作品を前に

ガードマンに怒られたこともあります。

— 取材対象はどのように決めるのでしょうか。

編集部からの依頼も多いですが、私から自主的に企画を提案することもあります。独自の情報ルートも持っていますので。ですからライバル誌のカメラマンとは仲良しだすが、同じものを取材した際はどんな写真を載せたか気になります。

— 長年続けられた秘訣は何でしょうか。

仕事に恵まれたからでしょうか。「ヤングレディ」で長く仕事をしていましたが、30歳で結婚し子供を産みました。その後離婚し母子家庭になったので、売り込みに行きました。数年後には「FLASH」創刊で呼ばれて、恵まれていました。「FOCUS」が休刊になったのは残念ですね。

— 女性写真家として有利、不利な点はありますか。

有利なことが多いと思います。不利なのは私の背が小さいので脚立の3段目に登らなければならないことです。ビートルズは女性だから撮れたのかもしれません。体も華奢で目立たないですから、22、3歳の一般の女の子だと思われたのかもしれません。

— 写真をやめようと思ったことはありますか。

ありませんね。ほかにやることがありませんし、明日の予定が決まっているので、やめる暇がなかったのです。もっとも、休日に本などを読むと、たとえば小説家のようなほかの仕事もいいなと思うことはあります。

— 同業者や若い世代との関係は?

同僚や同業者はライバルですが、いろいろ親切に教えてくれます。ある地方裁判所で入り方がわからなかったときに一緒に入れてくれたり、脚立を貸してくれたり、皆さん優しくて親切です。未だに親切を受けるばかりで、後輩には十分の一ほどしか返せていません。

若いカメラマンは私の100倍はデジタル知識がありますね。私もデジタルカメラを使いますのでPhotoshopはある程度できますが、彼らに教わることもあります。若いカメラマンはフィルム時代から比べると100倍多く撮っていると思います、まるで動画のように。インデックスも膨大な量になるので編集者はすべてを見られないですね。

昔は写真を選ぶのがカメラマンだと言われました。私は今もインデックスに丸を付けて出します。よほど時間がない限りプリントも自分でしています。

— 佐々木さんにとて報道写真とは何ですか、またこれまでからの抱負は。

事実を伝える手段としか言えないです。何が良いか悪いか、正解がないのでその時々で考えなければなりません。これからはローライで作品を撮り続けたいと思っています。ご老人や普通のものが撮りたいですね。

— 長年の貴重な体験をお話しいただき、ありがとうございました。

(2012年4月27日 JPS会議室にて  
聞き手／小池良幸・飯塚明夫、撮影／小野吉彦)